

藤原直哉の ワールドレポート

第 606 号
8/01/30

・小田原ひなた村冬祭り開催！2月2日(土)藤原事務所小田原事務所センターで冬祭りを開催します。
おかげさまで3周年、口ハスで愉快な仲間たちが皆様をお迎えいたします。今回は多くのお申込が予想されます。お申込多数の場合は、
定員まで先着順とさせて頂きますのでご了承ください。ご参加希望、お問い合わせは荒井まで。(参加費：大人2千円、学生1千円、中学生以下無料)

おはようございます。今回の株の暴落は非常に大きな変化を全世界に与えつつあります。借金に依存した経済の崩壊というのでしょうか。国でも企業でも家庭でも、当たり前のように借金を増やすことになったところから次々に破断しているという状況です。借金は悪いことではないというような、今までの常識とは正反対のことを理論的に証明して見せてみんまに吹聴しまくった挙句が世界同時金融システム危機。やはり我々は常に常識や直感を大事にして屁理屈で道を誤らないようにしなければなりません。さらに常々リーダーシップ研修で強調している企業文化の大切さが、今ほど明確に現れている

ときはないように思います。まず最も目に付くのが消極的衛スタイル。すなわち、変化に対して見ざる・聞かざる・言わざるを決め込むスタイルです。自分で株や債券などの運用資産を持っている人の多くは、恐らく大したことなく問題は取捨されるだろうと未だに思っているようで、暴落がほとんど広がっている現状でも、何もせずに事態を見守っているだけの人が多いようです。

既にニューヨークタイムズ紙には日本の福田政権がこの現状に対して何もしないということを取り上げて報道している、世界最大の債権国が何もしないということに驚きを隠せないようです。さらに財界トップでも、今年の正月に年後半に景気は回復すると言っているような人たちは、待っていれば景気が回復するから何もしないということを暗に言っているわけですから、こちらも典型的な消極的衛スタイルです。こういう文化スタイルを持つ人の典型的な発想は、例えば船が漂流したり大嵐に遭遇しても、沈没・転覆さえしなければ漂流も大嵐もなかったのと同じだから何も問題は無い。したがって漂流や大嵐で騒ぐこと自体がまちがっている。しかも沈没・転覆などは偶然で起きることだからあらかじめ打つべき手はないし、想定外の出来事である。そして恐らくは自分にはそうした災難は降りかかってこないだろう。したがってそもそも大した問題ではない。しかしもし沈没・転覆したら、恥ずかしいから黙ってみんなの前から消えて一人で閉じこもるしかない。何かこんな感じなのです。おおよそ今の日本の政府や役所、金融機関はほとんど全員がこんな感じですし、一般の人たちを見て過半数はこういう感じだと思います。こういう人たちは変化に対して見ざる・聞かざる・言わざるを決め込みますから、そもそも変化のことを口にする人こそが無責任かつ悪であり、排除すべき存在だということになります。でもそういう人に無理に変化のことを聞かせたりすると精神的に不安定になることが多く、そういう姿を見るともはやこういう人は文化の問題ではなく、精神と肉体の両方が既に変化を受け付けないようになっていってしまう、変化が進むに連れて急速にエネルギーが抜けて生ける屍のようになっていきます。筆者は今までに本当にいろいろな方を見てきましたが、人に境遇の変化が起きる前には、必ずエネルギーの変化が起きているように思います。その人が勃興しているときには不遇な境遇でも非常に明るく温かい元気が出てきますし、どんなに境遇が悪くても落ちていく前にはエネルギーが抜けて愛情不足になり、暗く怒りっぽくなっています。特に表情にその変化が顕著に表れます。さらに物事がいよいよ上手いかなくなると言動が緩慢になり、本当に生ける屍のようになっていきます。そしてこういう人が立ち直ることができるかどうかが、それはその人にとつての極限状況で発想の転換ができるかどうかであり、九死に一生を得るような体験ができる

と、結構そこから立ち直って元気になるものです。反対に極限で相場に勝って生き残ったというような人は、発想の転換ができていないと再び同じような困難に遭遇してしまっています。こういう人たちは変化が緩やかであればそこに留まり、昨日と同じ生活を送ることができそうですが、変化が急激になると一斉に流されて消滅していきまます。それからもうひとつが変化に対して頑張りという文化、すなわち積極的衛スタイルです。この文化を持つ人は、基本的にはとにかく肉体と精神を酷使して頑張れば未来が開けると思っているのです。したがって不況と物価高が広がれば広がるほど強気な目標を立て、より一層自分を叱咤激励して馬車馬のように働きます。こういう人は大抵どの組織にもいるものですが、その馬車馬のような努力が実を結んでいる間はまだまだ良いのですが、馬車馬のように働いても結果が出なくなると、本人も組織も破断してしまします。去年から始まった急激な変化においても、上場企業や不動産・金融業界などを中心にそろそろ内外でそういう人が増え始めました。以前から本紙で述べているように組織も個人も、今の時代は何に対して頑張るのか、何が自分たちにとって成功なのかという成功の定義を注意深く決めないと、どんなに頑張っても世の中の変化に対応できず、いたずらに心身を疲弊させるだけの結果に終わってしまうのです。あまりに変化が大きいと、人は頑張るだけでは前に進むことができません。滝の直登は止めて、ちよつと道に戻って巻き道づたいに滝の上に出るしかありません。そのためには、盲目的に前へ前へ、頑張り頑張りではダメなのです。こういうタイプの人はとにかく競争が好きで、自分はまだ死んでないぞ、自分は上手に泳いでいるぞと自慢することが多く、また同じような競争をしている人と自分を比較しながら自分の居場所を確かめています。したがってみんなで赤信号を渡ってみんなが交通事故に遭うような結果になることが多く、競争に疲れて気持ち冷たくなっていき、結局は変化に耐え切れずに疲れ果ててしまうのです。そして言うまでもなく今の時代に元気が良いのが建設スタイルの文化を持つ人や組織です。すなわち変化にチャンスを見出し、人とよく提携しながら柔軟な発想で自己実現や世の中のための貢献をしていこうという人たちです。最近では社会貢献を言いながらも実際には競争文化が盛んな組織が多く、文化の測定は言っていることとはななくて、やっていることを見て行わなければならない。でも本当の建設スタイルを持つ

ている人や組織は明るく温かいのが特徴ですから、消極的衛文化や積極的衛文化の人とは全然雰囲気も表情も異なっており、それを見誤ることはありませぬ
(www.tsjapan.co.jp/solution/OrganizationalCultureInventory.html
実は遠山郷や小田原口ハス学校にはこういう方しか来ないから不思議です)そしてこういう組織は変化の中でもパフォーマンスが良く、まさに変化を楽しみながら新しい未来を創っていくことができまますし、人もはつらつとしていきます。ですから巨大な変化が来るときには、結局は積極的衛スタイルの企業文化を持つ人たちが次の時代を創っていくのです。だから次の時代がどうなるかを知らなければ、どんな人や組織に積極的衛スタイルが広がっているかを見るのが一番早いのです。なぜその人なのか、なぜその組織なのかは今まではわからなくても、まさに天の働きでそういう人が活性化しているのですから、やがて新しい時代が到来するたときには、その理由もわかるはずですよ。読者諸兄もどうぞ改めて自分と自分の組織を見直し、変化に対して建設的に考えて行動していただくさい。当社でも今週末に小田原で定例の「小田原ひなた村祭り」を開催し、みなさんに口ハスな風を感じてもらいながら、ゆつたりと未来を考えて

・第4回傾聴練習講座 2月16日(土)10時~17時半 シンクタンク藤原事務所渋谷研修センターにて。参加費：一人1万円 詳細は弊社岩松まで。
・藤原直哉新刊本発売 藤原直哉著『繰り返す 世界同時株大暴落・自民崩壊・生活壊滅の時代』があつん社から1470円(税込)で発刊されました。
・サイン本を代引宅急便(本代+手数料+送料)でお送りいたします。ご希望の方は弊社までご連絡下さい。

・藤原直哉&土橋重隆の社員健康増進講座「キックオフ会のご案内」2008年2月10日(日)〜11日(祝)、大磯プリンスホテルにて1泊2日の研修を開催します。

料金は6万円(消費税、宿泊費、食事代込み)。詳細は資料を請求ください。(担当 岩本)

・水戸市の物理学の鑑定事務所澤宗に鑑定依頼(ご希望の方はホームページ <http://www.zemura.com>)をご覧ください。

・藤原塾水戸3月7日、高松2月8日、名古屋5月8日、福岡2月14日(木)、大阪4月11日、厚木2月22日、越後長岡4月18日、広島3月14日、秋田2月24日。

・いたたく機会を持ちたいと思

います。多くの方のご参加を

お待ちしております。

今週の論説

仏で巨額不正発覚

サブプライム問題は全世界

に次々と新しい波紋を広げて

います。フランスの大手銀行

ソシエテジェネラルでは、不

正取引が発覚して7千6百億

円の損失。株価は昨年のピー

クと比べて半値に暴落し、3

1歳のトレーダーが拘束され

ています。本場にこの一人の

男だけが悪いとは思えません

が、とにかくフランスも膨大

な損失を蒙っていたわけで、

ユーロも他通貨に対して値を

下げており、今後は欧州各国

で広がっていた住宅バブル崩

壊の影響も出てきて、欧州の

金融システムも無事ではすま

ないだろうと思います。さら

に中東では最近のカネ余りを

背景に巨大なプロジェクトや

海外への投資案件が目白押し

ですが、実際には米国のサブ

プライム問題の影響を受けて

いて、今後関連損失が発表さ

れる予定であり、中進国が米

国に代わってこれからますます

成長していくというようには

なりそうにありません。要

するに中進国の多くは欧米の

金融システムを使いながら、

欧米に輸出をして成長を維持

しているのです。ですから欧

米が揺らげばその上に乗って

いる中進国も揺らいでしまう

のです。特に中進国の中でも

買収機構設置を言い出してい

ますが大した金額にはならず、

連邦政府の保証がある住宅抵

当公社の機能拡充についても、

かえって不良債権を増やすリ

スクがあるという意見が続出。さらにFRBが先週0.75%も利下げしたことは中央銀行がパニックを起こしたとして内外から批判する声が強く、米政府が暴落に慌ててマネーを撒き散らすことに警戒する声が上がっています。米国内では引き続き住宅ローン、カードローン、自動車ローンの延滞と破綻が増加中で、フォードも1万3千人の追加削減。膨大な数の売り家があるものの、高騰する保険料となかなか下りない住宅ローンのために家を買うことが難しくなっており、昨年頃から今年にかけて米国の中産階級の人たちは、まるで壁に激突したような急激な困難に直面しつつあります。そして今話題になっているのがモロラインといわれる金融保証専門保険会社の経営問題で、保証会社が格下げになれば膨大な数の債券が格下げになることから、大騒ぎになっています。推定ではこの格下げで世界の金融機関は総額で15兆円も増資しなければならなくなると言われており、市場では保証会社の救済の話が出ているものの、バブル崩壊が底を打つまでは損失は増え続けますから、実際には巨大な格下げの嵐が市場全体に広がることは避け

・21世紀、生きがい講座と題して毎月第3水曜(次回2月20日)午後7時から9時まで新橋航空会館にて大本東京本部の一般向け講座が開催されます。

・次回は「大本神話 地の巻」みくろの世」と題して、大本教学委員 吉村 智 氏が講演を行います。会費は2千円(学生1千円)、詳細同本部へお電話(03-3821-3701)で。

・2月の自治調査研究会は2月27日(水)午後6時から、かながわ県民サポートセンター304号会議室にて、「これからの日本」と題し、

・税制調査会長衆議院議員 元大蔵大臣 藤井 裕久 先生のお話を伺います。お問い合わせ申し込みは同会までお電話(045-263-0055)でどうぞ。

藤原直哉 拜

購読料はFAX国内年間21,000円です。海外発送あり。無断転載お断り。シンクタンク藤原事務所発行。〒250-0055 神奈川県小田原市久野849-10

<TEL>0465-32-1791 <FAX>0465-32-1794 <E-Mail>info@fujiwaraoffice.co.jp <URL>http://www.fujiwaraoffice.co.jp/